



LETTERS

2025年 夏号

公益財団法人
佐倉国際交流基金

〒285-0025
佐倉市鍋木町 198 番地 2
TEL・FAX 043-484-6326

外国人パパ・ママの学びを支える



佐倉市には現在約 5,000 人の外国人市民が暮らしています。言葉の壁を超えて地域で安心して生活していけるよう、佐倉国際交流基金では、市内 6 か所で外国人のための日本語講座を開講しています。学習者の中で小さなお子さんを育てながら日本語を学びたいという保護者のために、子どもを預けられるクラスもあります。学ぶ親のそばで、子どもたちを温かく見守っているのは、頼りになるボランティアのベビーシッターさんたちです。今回はそんなベビーシッターさんたちにお話をうかがいました。

「たまごがあるね」
などやさしく日本語
で話しかけること
で、日本語を学ぶパ
パ・ママと同じよう
に日本語で話し、ふ
れあう機会を大切
にしています。



子どもとふれあう楽しい時間

子どもたちが楽しみに来てくれることがうれしい

志津コミュニティセンター

木曜日クラス ベビーシッターさんの声

保育中は怪我がないよう安全に気を配っています。初めは泣いていた子が笑顔で通ってくれるようになるのが、何よりの喜びです。ボランティアを始めたきっかけは、「子どもと一緒に過ごすのが好き」「子どもが成長し、子育てがひと段落したから」などさまざま。年齢や経験に関係なく参加しています。皆で協力しながら無理なく楽しく活動しています。

木曜日、北志津児童センターの「ちびすく広場」ではみんなでお遊戯タイム♪日本人の親子と一緒に遊びます。



自分の子育て経験を活かしてママたちが安心して学べる場を作りたい

根郷公民館 土曜日クラス ベビーシッターさんの声
自宅から近い場所で経験を活かせるところが魅力です。外国人のベビーシッターさんは、自身が若い頃、子育て中は子どもを預けて日本語を学ぶことができませんでした。だからこそ、自分が子どもを預かることで少しでも日本語を学ぶ外国人ママやパパの支えになれたらと話してくださいました。



土曜日クラスはプレイルームでお絵かきやカードゲームなどで楽しんでいます。

地域でできる国際交流をしてみませんか

佐倉国際交流基金では、外国人の暮らしや学びを支えるため、ボランティアを随時募集しています。

- 外国人のための日本語講座 日本語講師、ベビーシッター
 - 外国人のための生活相談 英語・中国語・スペイン語・ダリー語等 通訳・翻訳サポート
 - 国際スピーチコンテスト等のイベントなど、地域でできるお手伝い
- ご自宅の近くで、できる範囲で国際交流に関わってみませんか？

※ボランティア登録について詳しくは佐倉国際交流基金(SIEF)HP をご覧ください。⇒



佐倉市内で増加するアフガニスタン人のための日本語学習支援や生活支援について考えることを目的に「アフガニスタン人への支援のあり方」と題し、2025年2月3日(月) 特定非営利活動法人イーグル・アフガン復興協会 理事長、江藤セデカ氏を招いて特別講演を開催しました。日本語のボランティア講師を中心に約40名が参加しました。

江藤氏は長年アフガニスタンの女性や子どもたちへの支援活動を続けておられます。講演では、女性の教育や社会に出ることが厳しく制限されている現状、そしてその背景にある文化や政治的状況について、具体的な体験談を交えて語ってくださいました。



講演会での様子

母国では、女性の多くは高等教育を受けることができず、16歳以上になると同じ部族同士で結婚し、家事と育児の生活が基本となるそうです。また、幼少期から「他人に声をかけない」、「家族以外の男性と話さないように」と行動に制限を強いられているようです。

参加者からは、「自分の想像以上に、アフガニスタンの女性の立場が弱いということに驚いた」、「アフガニスタン人と一言でくれない。部族ごとで、教育、職業に多様な考えがあることを知った。」という声が寄せられました。

佐倉市にもアフガニスタン出身の女性が多く生活しており、日本ででの生活にもさまざまな課題を抱えています。言語や文化の違いに加え、外出や人との交流に不安を感じる方も少なくありません。アフガニスタン人の女性が積極的に日本社会のコミュニティーに入ることは、本人の意思だけでは難しいことが想定できます。

SIEF では昨年秋より女性に向けた日本語講座を根郷公民館で開講しました。日本語学習を通じて、外国にルーツをもつ女性たちが安心して学び、言葉の壁を超えて社会や地域に暮らす方々と関わり合いができるように、支援を続けてまいります。

— 外国人への理解を深める学び —

東邦大学実習生、日本語講座を見学

東邦大学健康科学部看護学科の8名の実習生の皆さんが5月22日(木)日本語教室・成人クラスと5月28日(水)小中高生クラス AIUE さくら志津を見学しました。同大学の日本語講座の見学は2023年から始まり、すでに3年目になります。

小中高生のクラスで実習生の皆さんは、日本語講師と6つのグループの紹介や説明を受け、その後全体見学、個別グループの学習に参加しました。学習者は実習生のお兄さん、お姉さんに優しく日本語を教えてもらい嬉しそうでした。見学後の質疑応答では「生徒とのコミュニケーションで注意していることは何ですか」という問いに、講師は「なるべく学習者に日本語で話しかけること、放課後の学びなので、学習の合間に休憩時間をとるなど臨機応変に対応しています」と話していました。講師から「やさしい日本語」の病院での取り組み状況を伺ったところ、東邦大学佐倉病院婦人科ではアフガニスタンの女性の患者も増えつつあり、「やさしい日本語」での案内を始めています。病院全体での取り組みも進みつつありますとのことでした。医療現場において外国人も診療が受けやすくなるような取り組みがなされているようです。実習生の皆さんにとって今回の見学がこれからの糧や学びのきっかけになることを期待しています。



外国人のための生活相談 – 英語、中国語、スペイン語の通訳・翻訳のお手伝い–

行政窓口や病院、学校などで外国人市民とのコミュニケーションにお困りではないですか？

英語、中国語、スペイン語の通訳・翻訳のお手伝いをします。

医療・福祉・教育団体、市役所など公的機関からの依頼を受けます。

費用は無料

- ◆ 市役所窓口での各種申請、手続き
- ◆ 保育所・幼稚園での入所申請、オリエンテーションや面談
- ◆ 学校の入学手続きや三者面談
- ◆ 病院や診療所での窓口サポート



- ◇ 市役所から届く手紙が読めない
- ◇ 学校のお便りが読めない・返事が書けない
- ◇ 保育所・幼稚園・学童保育所の申込書が書けない
- ◇ 学校の先生との面談に同行して欲しい など

個人からの依頼もできます▶▶

利用方法: 事前の予約が必要です。まずは事務局までご相談下さい。

その後、「SIEF外国人支援依頼書」をお送りいたしますのでご提出ください。

問い合わせ先: 公益財団法人 佐倉国際交流基金 TEL:043-484-6326 Email: info@sief.jp

「佐倉市のお知らせ やさしい日本語版」▶▶SIEF の生活相談員のみなさんで「こうほう佐倉」の情報を元に、外国人の方にも分かりやすい日本語で、毎月発行しています。SIEF事務局や公共施設に置いています。お近くにひらがなが読める外国人がおられましたら、お渡しください。

日本語講座 日曜日クラス合同交流会 —非常用保存食「アルファ米」の試食—

6月22日(日)、佐倉中央公民館で日本語講座日曜日クラスに通う外国人学習者約 30 名とボランティア講師が集まり、日本語学習と交流会を開催しました。日本語での自己紹介に次いで伝言ゲームに挑戦しました。10 人が 1 列に並び 3 チームで対戦。「料金」「給料」などうまく伝わった時は拍手や歓声が起こりました。その後日本についての〇×クイズをしました。後半は、日本は自然災害が多い国であることに触れ、災害時にどう行動するかについて学びました。最後に、実際に避難所に備蓄されている非常用保存食「アルファ米」を作って試食しました。初めての体験に、学習者たちは興味津々で協力しながら取り組み、有意義な交流会となりました。普段のクラスとは異なる仲間と楽しく日本語を学べる一日となりました。



日本語講座 ボランティア講師研修会

6月30日(月)、佐倉中央公民館でボランティア講師の研修会を開催しました。はじめに自己紹介や昨年度の活動報告を行いました。研修会では、長年日本語学校講師でありボランティアで講師もされている東谷雅美さんをお迎えしました。まず、「やさしい日本語」を使って学習者と話す場合、どのように話すかを具体例を交えて学びました。教室でのルールを伝えたり、休憩をすすめる際も相手が理解しやすい言葉選びが大切だということを再確認しました。教材を使ったグループワークでは、学習者がそのレッスンを受けることで「何ができるようになるか(Can-do)」を意識した指導法を体験しました。普段使用する教材に加え、新たな教材や指導法にも触れる機会となりました。現在、佐倉市内では6ヶ所13クラスの日本語講座を開講しています。昨年は一昨年より約700名の学習者が増え、年間でのべ3,200名の外国人が日本語を学びました。生活に役立つ日本語の支援の大切さを改めて感じる時間となりました。



学ぶ楽しさ、世界とつながる 佐倉市国際文化大学

海外への興味から広がる学びの 世界 - 2025年度 佐倉市国際 文化大学が開講 -



受講生代表 宮城貴子さん

2025年5月18日(日)、佐倉中央公民館ホールにて、今年度の佐倉市国際文化大学 開講式が行われました。国際理解を深める全22回の講座に、今年も多く多くの市民が参加し、学びの場としての新たなスタートを切りました。開講式では、受講生を代表して宮城貴子さんが挨拶に立ち、会場に集まった受講生や関係者に深い感銘を与えました。

宮城さんのスピーチより(一部抜粋)

大学を卒業して以来約40年。再び“大学”という場所で学ぶことに、わくわくしております。私は海外留学や海外赴任の経験はありませんが、国際文化に興味を持ったきっかけが2つありました。

ひとつはK-POPグループとの出会いです。彼らの活動を通じて、韓国の文化や歴史に触れる機会が増えました。隣国でありながら、これまで何も知らなかったことに気づかされました。

もう一つのきっかけは、成田空港でのボランティアガイドの経験でした。政府の観光政策の一環として、長時間滞在する外国人旅行者を成田山新勝寺などに案内し、日本の魅力を伝える活動でした。そこで私は200人以上の外国人、主にインドやベトナム、マレーシアなどアジア諸国の方々と直接ふれ合い、

多様な文化に触れる機会となりました。今ではアジアの国々や人々にとても親しみを感じています。

世界は今、分断が進み、国際情勢も複雑さを増しています。だからこそ、佐倉市国際文化大学での学びの場に大きな意義を感じます。

宮城さんのスピーチからは、文化への好奇心や、交流を通じて育まれた共感の力が伝わってきました。日本の国際化が進む今、自らの生活の中で「知る」「伝える」「つながる」ことの大切さを改めて感じさせてくれます。老若男女問わず多くの市民の方に、この学びの場が広がっていくことを願っています。

講義を一部ご紹介します

6/14(土) 第1回公開講座
20年先を見据えた日本外交
—国際法とリアルな世界—
講師 外務省参与
元駐インドネシア大使
石井 正文 氏

元駐インドネシア大使、外務省参与の石井氏が外交の最前線で見えてきた世界から、これからの日本はどう国際社会を歩むべきなのか、日本外交の基本的課題に触れつつ、将来の日本の外交について話をされました。



6/21(土)
—浪曲の世界—
ちょっとかじると
聞き上手になる
講師 日本浪曲協会理事
浪曲師 玉川 奈々福 師匠

講師の話術に、いつの間にか引き込まれ、受講生も大きな声で発声をしていました。ワークショップなど楽しい時間でした。



受講生による体験の様子

I nformation

9/13(土) 第2回公開講座
トランプ2.0と
アメリカ社会の分断
講師 成蹊大学法学部 教授
西山 隆行 氏



場所: 志津コミュニティセンター
定員: 200名 参加費無料
8/15より申し込み開始
締め切り 9/7(日)

申し込み及び詳細は、佐倉国際交流基金、佐倉市国際文化大学のホームページをご覧ください。

イングリッシュサロンのサークル活動をご存じですか？

英語でおしゃべり
イングリッシュサロン

当サロンは、英語に興味があっても話す場所が無かったという方に好評をいただいております。

英語に興味のある方々と一緒に和気あいあいとした時間を共有することで、英会話力を伸ばしたい方におすすめのサロンです。

サロンでは外国人先生を Facilitator と呼びます。英会話の先生ではなく、会話を途切れないように進行する役割を担います。

毎回サロンで話すトピックスは予め用意されているので、トピック準備に悩まなくて済む上、会話の上手な方は発音など、英会話を学び始めた方は Facilitator が会話をサポートしてくれます。

翻訳機械が発達しても自分の言葉でコミュニケーションを取りたいと、2012 年開始から 13 年目を迎え、現在8名のボランティア運営委員により、8 クラス、80名以上の方が気軽に英会話を楽しんでいます。あなたも仲間入りしませんか？募集は毎年3月の予定です。ご興味のある方はホームページをご確認ください。

2025年度 イングリッシュサロン運営委員長 寺嶋 康美



イングリッシュサロンの様子



2024 クリスマス交流会



国際交流活動助成金事業 報告

国際交流親善・多文化共生の啓発に寄与すると判断される佐倉市内の団体・グループ等の活動における財政的支援を行っています。2024年度は2団体の支援を実施しましたのでご報告いたします。

シンガポールチームとの交流

臼井ブルージェイズ(小学生男女ソフトボールクラブ)

シンガポールから来日したチーム、イーグルファイブとの国際交流親善試合及び歓迎親睦会を2024年12月7日、8日に実施し、110名が参加されました。

代表者の有川哲郎氏は「スポーツは国境も言葉も超えると参加者にも感じてもらえたと思います。」とお話されていました。



オランダワークショップ「オランダ料理講習会」

佐倉日蘭協会

2024 年12月8日にてオランダ人で管理栄養士であり、オランダ王国大使館付属オランダ補習校の教師のビッキー氏を講師に招き、オランダの家庭料理を実習しました。農業大国オランダの Farmers cooking (農家の手料理)を佐倉の新鮮な地場野菜を使ったレシピで再現され、26名の参加者は美味しく楽しく文化を学べる会となりました。





応募期間 8月18日(月)～9月5日(金) 定員 各部先着20名
 ※定員に達し次第締め切り

開催日: 10月19日(日)
 午前の部 幼児・小学生の発表
 午後の部 中・高・大学生～シニアの発表
 会場: ミレニアムセンター佐倉 ホール



コンテストの詳細・応募要項・応募申込みはホームページにて ↑

主催: 佐倉国際交流基金 共催: 佐倉市 後援: 佐倉市教育委員会

◆ ご案内 ◆ 国立歴史民俗博物館

【企画展示】
 「野村正治郎とジャポニスムの時代—着物を世界に広げた人物」
 2025年10月28日(火)～12月21日(日)

【第3展示室特集展示】
 「生田コレクション 鼓胴」
 2025年7月23日(水)～8月31日(日)
 「野村正治郎の後継者—賤男の活動」
 2025年10月28日(火)～12月21日(日)

*開館時間・休館日等、最新情報はホームページ等でご確認ください。
<https://www.rekihaku.ac.jp>

【くらしの植物苑特別企画】
 季節の伝統植物「伝統の朝顔」
 2025年8月6日(水)～8月31日(日)
 季節の伝統植物「伝統の古典菊」
 2025年11月5日(水)～11月30日(日)



青斑入桔梗渦葉白地赤吹掛絞桔梗咲

佐倉国際交流基金 事業報告

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 国際相互理解推進事業 | 3 外国人支援事業 |
| ● 公開講座 | ● 外国人のための日本語講座 |
| ● 佐倉市国際文化大学 | ● 外国人のための生活相談 |
| ● 佐倉国際スピーチコンテスト | 4 その他附帯事業 |
| ● イングリッシュサロン | ● 国際交流ボランティア |
| 2 国際交流活動支援事業 | ● 後援事業 |
| ● 国際交流団体へ助成 | ● 国際交流活動等情報提供 |

当基金は運営ボランティアの皆様と賛助会員様のご理解とご協力の元に運営しております。ご支援賜り厚くお礼申し上げます。心より感謝致します。

◇2024年度決算のあらまし(佐倉市よりの受託事業を含む)

収入の部		支出の部	
基本財産運用収入	2,954,014	事業費	8,604,841
会費収入	542,000	管理費	1,534,577
事業収入	6,364,800	経常費用計	10,139,418
雑収入	14,264		
寄附金 他	54,155		
経常収益計	9,929,233	当期一般正味財産増減額	△210,185

公益財団法人 佐倉国際交流基金 事務局 (SIEF) 関口・古澤・木山

〒285-0025 佐倉市鏡木町198番地2 レインボープラザ佐倉 2F

電話・Fax 043-484-6326 (月～金 9:00～17:00) HP: <http://www.sief.jp> Email: info@sief.jp